Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 21第29号
2021年（令和三年） 10月29日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

10/14～10/20のNYMEX・WTI先物市場は、81.31～83.87ドルの範囲で推移した。

10月21日は、米海洋大気局（NOAA）が21日朝に公表した今冬の気象見通しで、米南部や東部を含む多くの地域で気温が例年より高くなるとの予想が示され、暖房向けの燃料需要の高まりが原油の需給逼迫につながるとの警戒感がやや薄れ、利益確定売りを促し、下落した。この日から期近になった12月限の終値は、前日比0.92ドル安の1バレル82.50ドルで取引を終えた。

週末22日は、対ユーロでのドル安などを背景に買われ、反発。12月限の終値は前日比1.26ドル高の83.76ドル。外国為替市場では、対ユーロでドルが下落。ドル建てで取引される商品の割安感につながり、原油が買われた。さらに米株高を背景に投資家のリスク回避姿勢が後退。同じリスク資産とされる原油にも買いが入った。中国や欧州、インドで石炭や天然ガス不足となる中、石油への切り替えが進むのではないかとの観測も依然として石油の支援材料となった。

米国内の稼働中の石油掘削装置は前週末比2基減の443基となった。

週明け25日は続伸し、一時、中心限月ベースで7年ぶりに85ドル台に乗せた。ただ、その後は利益確定の売りに押され、12月限の終値は前週末比横ばいの83.76ドル。前週末にサウジアラビアのエネルギー相、アブドゥルアジズ・ビン・サルマン王子が新型コロナ感染について「危機は収まったが終わっていない」と述べたと伝わり、原油需要が伸び悩むと警戒する主要産油国が一段の増産に動く可能性は低く、需給の引き締まり観測を強めた。買い一巡後は利益確定の売りに押された。米エネルギー情報局（EIA）が27日に発表する週間統計で原油在庫が増加するとみるアナリストが多く、相場の重荷になった面もある。

26日は続伸し、世界的な需給引き締まり観測を支えに上昇した。12月限の終値は、前日比0.89ドル高の84.65ドル。2014年10月以来約7年ぶりの高値を更新した。

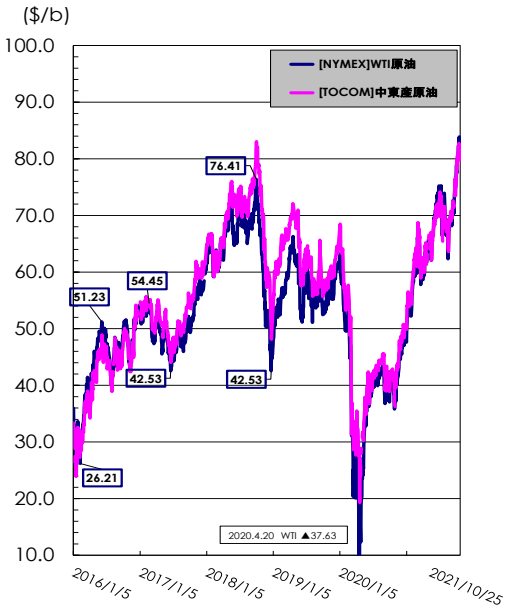
27日は、反落し、12月限の終値は、前日比1.99ドル安の82.66ドル。27日発表の週間の米石油在庫統計で在庫が市場予想以上に増え、需給の緩みが意識された。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（12月渡し）は、10月14日～10月20日の間、81.80～83.70ドルの範囲で推移した。10月21日83.50ドル、22日82.00ドル、25日83.80ドル、26日84.00ドル、27日83.50ドルで推移した。

為替は10月14日～10月20日の間、113.39～114.68円の範囲で推移した。10月21日114.28円、22日114.03円、25日113.72円、26日113.83円、27日114.12円で推移した。

そのような中で、10月25日時点の小売価格は、ガソリンが前週（10月18日）比2.7円の値上がり、軽油は同2.7円の値上がり、灯油は同50円の値上がり（18㍑ベース）だった。ガソリンは8週連続の値上がり、軽油も8週連続の値上がり、灯油も8週連続の値上がりだった。この週（10月第4週）の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比0.5円の値上げとなった模様。

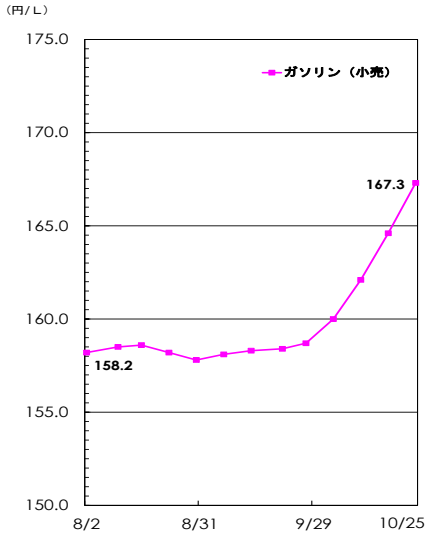
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	10/17 ～ 10/23	2,741	▼ -80	▲ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	71.2	▼ -2.1	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	10/23	9,896	▼ -132	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	10/25	81.50	▼ -1.24	▲ 40.8
	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	10/25	83.76	▲ 1.32	▲ 45.2
	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	9月下旬	73.96	▲ 0.46	▲ 27.71
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	51,115	▲ 283	▲ 20,290
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	109.88	▲ 0.07	▼ -3.93
	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	10/25	114.72	▲ 0.55	▼ -9.02



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		10/17 ～ 10/23	865	▲ 24	▲ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	737	▼ -93	▼ －
	輸出		〃	63	▲ 63	▲ －
	在庫		10/23	1,575	▲ 64	▼ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	10/19 ～ 10/25	76.9	▲ 2.4	▲ 33.8
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/19 ～ 10/25	76.0	▲ 0.4	▲ 36.7
		(TOCOM/中部)	10/25	72.0	▼ -4.5	▲ 31.2
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	10/25	167.3	▲ 2.7	▲ 33.4

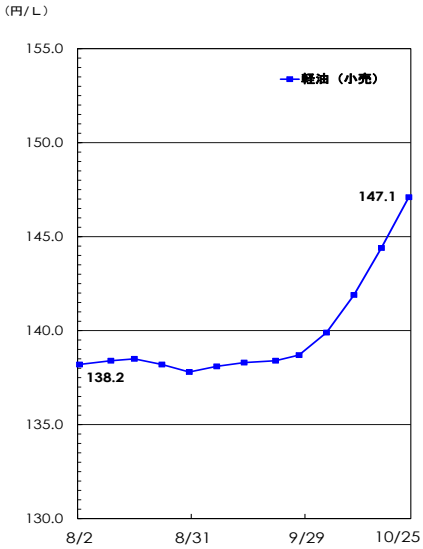
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

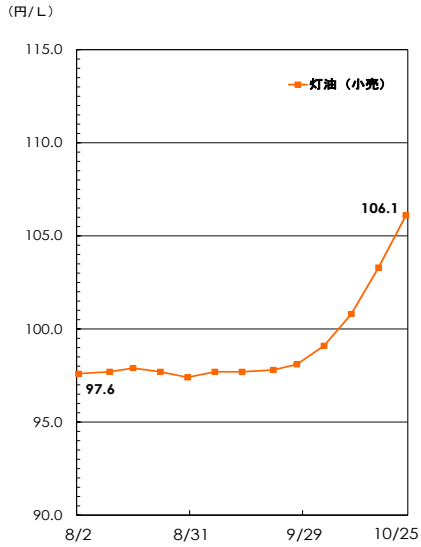
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		10/17 ～ 10/23	707	▲ 18	▲ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	564	▼ -33	▼ －
	輸出		〃	126	▼ -6	▲ －
	在庫		10/23	1,438	▲ 16	▼ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	10/19 ～ 10/25	78.1	▲ 2.8	▲ 32.5
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/19 ～ 10/25	78.0	▲ 1.7	▲ 31.3
		(TOCOM/中部)	10/25	－	－	－
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	10/25	147.1	▲ 2.7	▲ 32.5

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		10/17 ～ 10/23	220	▼ -60	▲ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	283	▲ 104	▲ －
	輸出		〃	0	▼ -24	▼ －
	在庫		10/23	2,611	▼ -63	▼ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	(RIM)	10/19 ～ 10/25	77.4	▲ 2.4	▲ 32.0
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/19 ～ 10/25	75.4	➡ 0.0	▲ 33.1
		(TOCOM/中部)	10/25	77.8	▲ 1.1	▲ 34.2
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	10/25	106.1	▲ 2.8	▲ 26.2



■ 関連情報

1　海外/原油

10月27日のNYMEX先物原油は、原油・石油製品在庫の予想を上回る増加を受け、反落した。12月限の終値は、前日比1.99ドル安の82.66ドル。1月限の終値は1.88ドル安の81.48ドル。

米エネルギー情報局（EIA）が午前に発表した22日までの1週間の米原油在庫は、前週比430万バレル増と、市場予想（190万バレル増＝ロイター通信調査）の2倍以上の積み増し。一方、ガソリン在庫は200万バレル減（予想は190万バレル減）、ディスティレート（留出油）在庫は40万バレル減（予想は230万バレル減）といずれも取り崩しとなった。原油在庫の増加を背景に供給逼迫（ひっぱく）懸念が後退し、一時82.36ドルまで売り進まれた。

EIAによると、10月25日時点のガソリンの小売価格は、前週比6.1セント値上がりの1ガロン3.383ドル（102.4円/㍑）、ディーゼルは同4.2セント値上がりの3.713ドル（112.4円/㍑）となった。ガソリンは4週連続の値上がり、ディーゼルは6週連続の値上がりとなった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、2021年10月17日～10月23日に休止したトッパー能力は42.5万バレル/日で、前週に対して3.3万バレル/日増加した（全処理能力は345.8万バレル/日）。

原油処理量は274.1万klと、前週に比べ8.0万kl減少。前年に対しては20.4万klの増加。トッパー稼働率は71.2%と前週に対して2.1ポイントの減少、前年に対しては5.3ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油が減産、その他の油種で増産となった。

ガソリン/2.9%増、ジェット/11.8%増、灯油/21.4%減、軽油/2.6%増、A重油/5.8%増、C重油/39.2%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl（前週比0.0万kl減）。軽油の輸出は12.6万kl（前週比0.6万kl減）。

出荷（輸入分を除く）は前週比でジェット、灯油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。

前年比では灯油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンの出荷は73.7万kl（対前週11.2%減）と2週振りに減少した。

ジェット5.6万kl（対前週37.2%増）、灯油28.3万kl（対前週57.7%増）、軽油56.4万kl（対前週5.5%減）、A重油17.3万kl（対前週12.1%減）、C重油16.0万kl（対前週21.0%増）。

（単位：千KL）

	今週 (10/17 ~ 10/23)	前週 (10/10 ~ 10/16)	前週比	
ガソリン	737	830	▼ -93	(-11%)
ジェット燃料	56	41	▲ 15	(37%)
灯油	283	179	▲ 104	(58%)
軽油	564	597	▼ -33	(-6%)
A重油	173	197	▼ -24	(-12%)
C重油	160	132	▲ 28	(21%)
合　計	1,973	1,976	▼ -3	(-0%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

10月23日時点の在庫は、ガソリン、軽油、A重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

前年に対してはC重油が増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは157.5万kl、前週差6.4万kl増。前年に対しては25.8万kl少ない。

灯油は261.1万kl、前週差6.3万kl減。前年に対しては28.1万kl少ない。

軽油は143.8万kl、前週差1.6万kl増。前年に対しては14.2万kl少ない。

A重油は72.1万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては3.7万kl少ない。

C重油は182.1万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては4.8万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (10/23)	前週 (10/16)	前週比	
ガソリン	1,575	1,511	▲ 64	(4%)
ジェット燃料	770	813	▼ -43	(-5%)
灯油	2,611	2,674	▼ -63	(-2%)
軽油	1,438	1,422	▲ 16	(1%)
A重油	721	701	▲ 20	(3%)
C重油	1,821	1,832	▼ -11	(-1%)
合　計	8,936	8,953	▼ -17	(-0.2%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

10月19日～25日の指標原油価格は前週（10月12日～18日）比で値上がりし、為替レートは円安で、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。

次週（10/28～11/3）の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、前週比0.5円の引き上げとなった模様。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

10月19日～10月25日の製品スポット市況は、10月12日～10月18日平均と比べ、灯油の先物取引の横ばいを除いて、他の油種・取引で、値上がりした。

直近週（10/19～10/25）の陸上スポット価格平均値は、前週（10/12～10/18）比で、ガソリンは2.4円の値上がり、灯油は2.4円の値上がり、軽油は2.8円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週（10/19～10/25）に、前週（10/12～10/18）比で、ガソリンは2.2円の値上がり、灯油は2.0円の値上がり、軽油は2.4円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は1.7円の値上がりだった。

（RIM）　（単位：円/㌔ℓ）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (10/19 ~ 10/25)	前週 (10/12 ~ 10/18)	前週比
スポット価格	レギュラー	76.9	74.5	▲ 2.4
	灯油	77.4	75.0	▲ 2.4
	軽油	78.1	75.3	▲ 2.8

（TOCOM）　（単位：円/㌔ℓ）

[期近物/終値〔平均〕]		今週 (10/19 ~ 10/25)	前週 (10/12 ~ 10/18)	前週比
先物価格	レギュラー	76.0	75.6	▲ 0.4
	灯油	75.4	75.4	➡ 0.0
	軽油	78.0	76.3	▲ 1.7

※上記価格は税抜き価格

参考値　（10/19～10/25実績値）　（単位：円/㌔ℓ）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 2.4	▲ 0.4	▲ 1.4
灯油	▲ 2.4	➡ 0.0	▲ 1.2
軽油	▲ 2.8	▲ 1.7	▲ 2.3
A重油	▲ 2.6		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

10月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週（10月18日）比2.7円高の167.3円、軽油は同2.7円高の147.1円、灯油は18㌔ℓベースで同50円高の1,910円（1㌔ℓベースでは同2.8円高の106.1円）。ガソリンは8週連続の値上がり、軽油も8週連続の値上がり、灯油も8週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは47都道府県で、横ばい、値下がりは対象がなかった。全国最安値は161.9円の茨城県（同2.1円高）、その次は、162.1円の埼玉県（同2.8円高）、他方、最高値は175.1円の長野県（同2.7円高）だった。最も値上がりしたのは同4.7円高の大分県（173.5円）で、横ばい、値下がりは対象がなかった。

今週（10月19日～25日）の指標原油価格は値上がりし、為替レートは円安で、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。次週（10月28日～11月3日）適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比0.5円の引き上げとなった模様。次回調査時（11月1日）のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

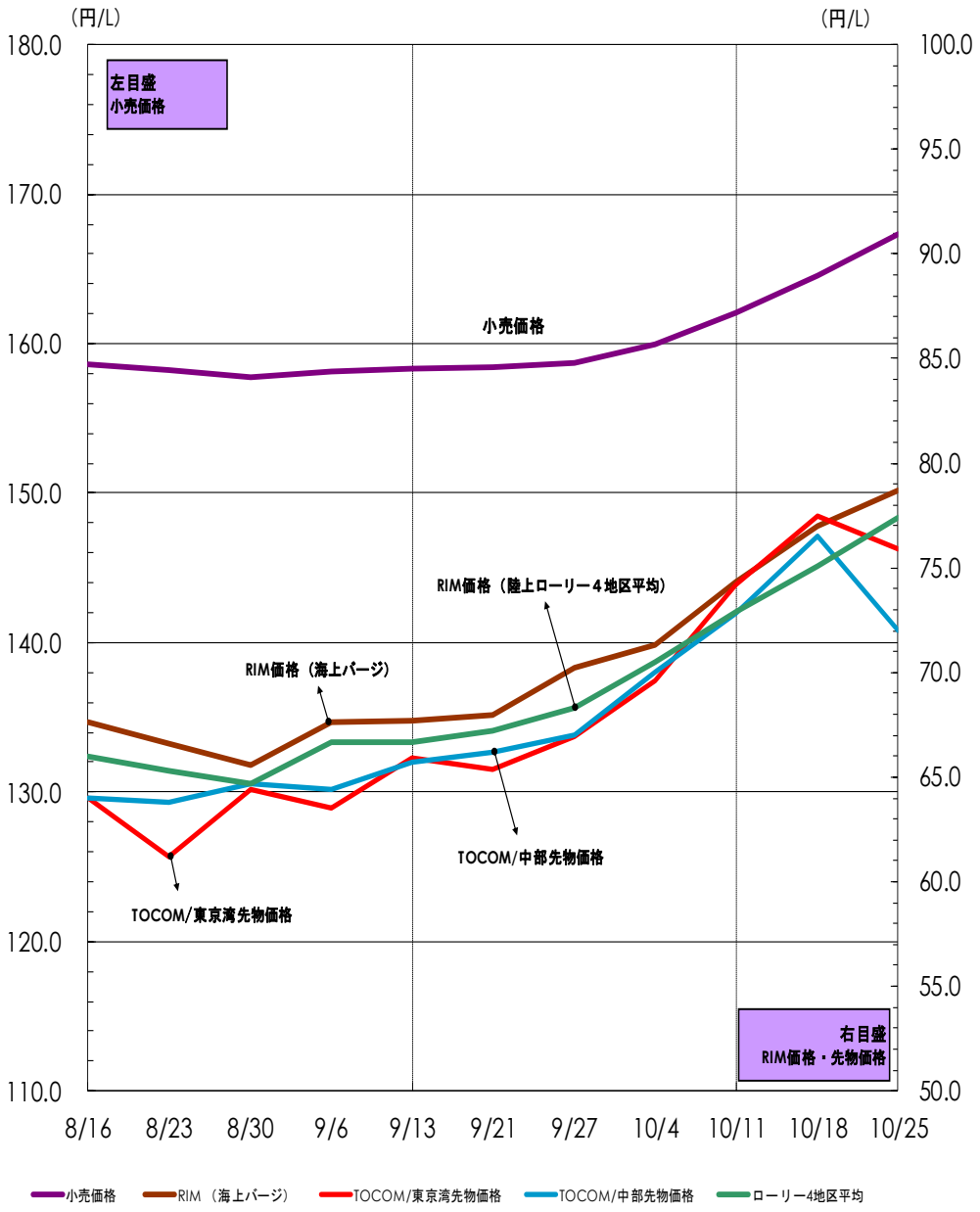
（単位：円/㌔ℓ）

（資エ庁公表）[週動向]		今週 (10/25)	前週 (10/18)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	167.3	164.6	▲ 2.7	08/8/4	185.1
	灯油	106.1	103.3	▲ 2.8	08/8/11	132.1
	軽油	147.1	144.4	▲ 2.7	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/8/16　～　2021/10/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2021第30号）の公表は、11/5（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（令和3年3月末現在）は、8月25日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。